

潤間権八家文書

(採訪時住所 千葉県市原郡千種村今津朝山)

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
1	明治 9	1876			7	吉	諸費控帳			横帳	1		9
2	明治13	1880	辰		9	吉	萬覚帳 (金銭勘定帳)	富士講中		横帳	1		3
3	明治15	1882			4	吉	大々御神楽集金簿			横帳	1		39
4	明治15	1882			4	初申	永代大御神楽講金簿			横帳	1		40
5	明治16	1883	未		1	吉	塩松葉控帳	今津朝山村 潤間 <input type="text"/>		横帳	1		31
5	1						覚 (魚代金受取)			折紙	1		31 1
6	明治16	1883	未		4	初申	初申諸費控帳	一山講社		横帳	1		43
7	明治16	1883	未		5	吉	諸品之通	角屋印	周旋方中	横半帳	1		59
8	明治16	1883			7	良辰	拝殿修復諸経費附込簿			横帳	1		41
8	1	明治16	1883		1	31	記 (浅間神社分 金×40銭受取につき)	下川 <input type="text"/> 印	西賀鉄蔵様 潤間三次様	切紙	1		41 1
8	2	明治			1	11	記 (金銭受取)	下川半左衛門	千元講中御中	切紙	1		41 2

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
8 3	明治				5	8	記 (金1円30銭受取につき)	角屋印		切紙	1		41 3
8 4	明治)17				1	1	記 (金98銭8厘受取につき)	角屋印		切紙	1		41 4
9	明治17	1884	甲申		4	吉辰	初申請入費控			横帳	1		44
10 1	明治18	1885		旧	1	22	(内出田中講中54件分集金渡し状)	小高與惣吉	潤間三治郎殿	切紙	1		63 1
10 2					12	26	仕切 (ばか336文31円2貫900文につき)		こやしや	切紙	1		63 2
10 3	明治39	1906			1		記 (酒1升,代金15銭につき)	印	潤間甚蔵殿	横帳	1		63 3
10 4					1	26	キ (12樽分代金受取につき)	定七印	八平様	切紙	1		63 4
11	明治18	1885	酉	旧	4	3	初申請入費控帳	世話人		横帳	1		45
12	明治19	1886	戌		2	10	萬控帳 同年廿一年三月改			横帳	1		4
13	明治19	1886	戌	旧	4	9	初申請入費控帳	宮宿講 内出講 世話人		横帳	1		46
13 1							記 (塩等・代金に銭請取につき)	下川半左衛門印	仙元講 頭 潤間権八殿	切紙	1		46 1

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
13	2						記(酒等代金3円67銭請取につき)	角屋印	富士講 世話人中様	便箋	1		46 2
14	明治20	1887			正	3	初申諸入費控帳	構社中		横帳	1		42
15	明治21	1888	戊子			1	吉辰 萬控帳	潤間姓		横帳	1		5
16	明治21	1888				1	吉辰 萬仕入帳	潤間甚蔵		横帳	1		25
17	明治21	1888	子			4	初申 諸入用覚帳			横帳	1	断簡添付	23
17	1					5	14 記(酒, 線香代など)	角屋	世話人中様	折紙	1		23 1
17	2						(交名書上)			折紙	1		23 2
17	3						記(交名書上)			折紙	1		23 3
18	明治22	1889	丑			1	吉辰 萬控帳	潤間権八		横帳	1		6
19	明治22	1889	巳			1	吉辰 仕入扣帳	潤間甚蔵		横帳	1		24
20	明治22	1889	丑			4	初申 初申諸入費控帳	内出講社		横帳	1		47

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号	
21	明治24	1891	辛卯		1	吉辰	日記帳(手間賃, 手間賃, 経費, 作業料)	潤間甚蔵		横帳	1	付箋に24とあり	1	
22	明治24	1891	卯		1	吉辰	萬控帳	潤間姓		横帳	1		7	
23	明治24	1891	卯		4	初申	初申諸費控帳	内出講社		横帳	1		48	
24	明治24	1891		旧	9	晦	魚取高控帳	潤間三治郎, 清水安太郎		横帳	1		15	
25	明治25	1892	辰		1	吉	日記帳(手間賃, 経費, 作事料一人別勘定書上)	潤間甚蔵		横帳	1		2	
26	明治25	1892	辰		1	吉辰	諸用控帳	潤間姓		横帳	1		8	
27	明治25	1892			4		月並不備全扣帳			横帳	1		33	
28	明治25	1892	辰		4	初申	初申諸費控			横帳	1		49	
29	明治25	1892			8	吉辰	揚萬扣帳			横帳	1		14	
30	明治25	1892			8	良	網諸入用費控簿	仲間中		横帳	1	紐に1点(30-1)が括りつけられている	22	
30	1				9	9	し切(12杯分代金21貫600文につき)	喜左衛門	潤間甚蔵殿, 青木百治郎殿	切紙	1		22	1

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
31	明治25	1892			8	吉辰	仲間諸費扣帳	仲間中		横帳	1		32
32	明治25	1892			9	吉	鯉水揚扣帳			横帳	1		16
33	明治25	1892			9	吉	第弐号 鯉取揚控帳	内出仲間		横帳	1		17
34	明治26	1893	巳		1	吉辰	日記帳			横帳	1		54
35	明治27	1894			8	1	鯉取高扣帳			横帳	1		18
36	明治27	1894			8	6	八手網諸費控帳			横帳	1		28
37	明治27	1894			12	吉	水揚之帳	仲間中		横帳	1		19
38	明治27	1894			12	吉	第二号 刃貝買入帳			横帳	1		36
39	明治28	1895			1	吉辰	萬控帳	今津朝山区 潤間權八		横帳	1		10
40	明治29	1896			9	吉辰	問屋小賣控帳	千種村今津朝山内出仲間		横帳	1		29
41	明治29	1896			10		第二號 鯉水揚帳	内出組万歳		横帳	1		20

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
42	明治30	1897	酉		11	吉	火乃番給料覚 <input type="text"/>			横帳	1		34
43	明治32	1899		旧	8	吉	萬控帳	七軒組		横帳	1	紐に3点(43-1, 2, 3)が括りつけられている	12
43	1						(金銭勘定 断簡)			折紙	3		12 1
43	2						(買物控書 断簡)			折紙	2		12 2
43	3	明治32	1899		11	11	証(麻糸等代金受取につき)	寒川 布施 要吉 [㊦]	元今津村 青木亀次郎様	切紙	1		12 3
44	明治32	1899			8	吉	勘定帳	七軒組		横帳	1	紐に3点(44-1, 2, 3)文書が括りつけられている	26
44	1	明治32	1899		11	8	記(干鈔代金)	本橋善太郎	潤間甚蔵 殿	切紙	1		26 1
44	2						記(金銭書上, 水主飯米カ)			切紙	1		26 2
44	3						記(出勤表及び金銭勘定カ)			折紙	1		26 3
45	明治33	1900			10	吉	鯉取高帳			横帳	1	裏に「明治三十三年 株主勘定帳」とあり紐に6点(45-1, 2, 3, 4, 5, 6)が括られている	21 1

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
45 1							(鯉取高帳断片)			折紙	1		21 1 1
45 2							(鯉取高帳断片)			折紙	1		21 1 2
45 3							(鯉取高帳断片)			折紙	1		21 1 3
45 4							(鯉取高帳断片)			折紙	1		21 1 4
45 5							(鯉取高帳断片)			折紙	1		21 1 5
45 6							(鯉取高帳断片)			折紙	1		21 1 6
46	明治35	1902			8	吉辰	小間世買入扣簿	内出関進社		横帳	1		30
46 1	明治				10	16	記(金銭内訳覚)			切紙	1		30 1
46 2	明治						金銭覚(¥60円4銭とあり)			切紙	1	前欠	30 2
47	明治35	1902			8	吉辰	鯉網諸費払辻簿			横帳	1		38
48	明治38	1905			10	吉辰	引合			横半帳	1	「青瀬」の印あり	60

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
49	明治39	1906			11	吉辰	諸費勘定付込帳	今津仲買		横帳	1		27
50	明治39	1906			11	吉	呆貝積立帳	今津仲間中		横帳	1	紐に3点(50-1,2,3)文書が括りつけられている	37
50	1				10	21	(青柳浦 金銭書上)			切紙	1		37 3
50	2						(断片 金銭勘定)			切紙	1		37 1
50	3						(断片)			切紙	1		37 2
51	明治40	1907			4	初申	初申諸費井人名帳	内出講社		横帳	1		50
52	明治40	1907			1	23	為替(ばか115樽8合, 〆776貫500文につき)	社深川魚市場事務所印	今津文次郎殿	便箋	1		61
53	明治44	1911			3		非常用新工事寄附連名簿	内出町世話人		横帳	1		35
53	1	明治44	1911		3	5	記(紙代, 酒代, 酢代等, 〆金1円32銭雑費明細)	角や	世話人	横帳	1		35 1
53	2	明治44	1911		3	5	記(薪代, 正油代等, 〆金, 1円79銭, 雑費明細)			切継紙	1		35 2
54	明治44	1911			4	初申	初申諸費帳	内出講社中		横帳	1		51

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
55	明治						(萬控帳)	潤間権八回 (上引サ千種 村今津潤間)		横帳	1		11
56	明治						萬 <input type="text"/>			横帳	1	当座帳	13
57	明治)						(日記帳)			横帳	1		55
58	1						(横帳断簡)			切紙	1		64 1
58	2						記 (9月22~24日金銭勘定)			切紙	1		64 2
58	3						記 (4月4日薪代・茶代など諸入用費書上)			折紙	1		64 3
58	4						記 (小間せ・松葉代金他, 金銭勘定につき)			折紙	1	松葉ガ二	64 4
58	5						(金銭勘定覚)			折紙	1		64 5
58	6						記 (しろ, あさ代金その他金銭勘定につき)			折紙	1		64 6
58	7	明治)					覚 (金銭勘定につき)			折紙	1		64 7
58	8						覚 (金銭勘定覚につき)			折紙	1		64 8

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
58 9							(金銭勘定覚につき)			折紙	1		64 9
58 10							記 (10~21日金銭勘定覚につき)			折紙	1		64 10
58 11							記 (金銭勘定覚につき)			折紙	1		64 11
58 12							(金銭勘定覚)			折紙	1		64 12
58 13							(金銭勘定覚)			折紙	1		64 13
58 14							(白紙)			折紙	1		64 14
59	昭和4	1929		旧	7	12	盆供并費用控帳	金蔵院		横帳	1		53
60	昭和26	1951			10	22	(祭魚洞書屋収蔵古文書封筒)			封筒	1	「東京都中央区月島三號地 国立東海区水産研究所内 水産庁資料整備委員会 日本常民文化研究所」封筒	65
61	昭和26	1951			11	15	メモ (「15箱 潤間権八氏寄贈文書 目録完成 1951.11.15」とあり)			切紙	1		66
62							初申請費控帳			横帳	1		52

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	表題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
63							(勘定帳)			横帳	1		56
64							記(万控帳)			横帳	1		57
65							記(万控帳)			横帳	1		58
66	1				12	20	仕切(馬鹿26樽455貫文につき)	中文㊦	今津 権八様	横帳	1		62 1
66	2				12	25	し切(ばか127樽8合×1047貫920文)	久七㊦(千葉縣下総国東葛飾郡字堀江百六十番地 太田久四郎)	平太郎様	切紙	1		62 2
66	3				12	26	し切(ばか12樽336文)	丸三㊦(千葉縣下総国東葛飾郡字堀江百六十番地 太田久四郎)	八平様	切紙	1		62 3
66	4				12	16	し切(ばか227杯半, ×1023貫750文につき)	深川中竹	潤間権八様	切紙	1		62 4
66	5				12	26	し切(ばか12樽×336文につき)	大森仲文㊦	今津仲間中	切紙 継紙	1		62 5

解題 潤間権八家文書

史料の概要と特色

「潤間権八家文書」は、1950年代初頭、水産庁の委託を受けた財団法人日本常民文化研究所（アチックミュージアム）による全国の漁村史料調査の際に、借用収集したものであり、昭和26（1951）年9月14日、潤間権八氏により水産庁に寄贈されたものである。これらは近代文書119点であり、現在は水産総合研究センター中央水産研究所に保管されている。前回の昭和50（1975）年整理時の文書数は64点と記録されているが、今回の整理で119点となった。この数字の増加は整理の仕方によるもので文書そのものの移動はなかった。これらの文書は、明治9（1876）年～昭和4（1929）年までに作成されたもので大部分が帳簿である。採訪当時の住所は、「千葉県市原郡千種村今津朝山」とあり、文書の所蔵者潤間権八氏本人から寄贈されたことを記す紙片が、文書と同一の茶箱に保管されていた。

所蔵文書119点を項目別に分類すると次のようになった。また、明治期に作成されたものが多く、全体の76%を占めている。

表1 潤間権八家文書 項目別表

作成日付 明治9（1876）年～昭和4（1929）年

	点数	項目	点数	備考
経営（家業）	85	水揚高	14	水揚高控帳、魚取上控帳
		商い（魚介類）	35	萬仕入帳、仕切書、問屋小売控、買入帳など
		諸経費（出入）	36	諸入用覚、小間世買入、漁網諸費掛、給料覚、日記など
家	34	宗教	30	永代大御神楽講金簿、初申諸入用費控帳など
		その他	4	雑
	119		119	

総数119点の史料は、大別すると経営関係（家業）85点と、私的な家の文書34点になる。表1では、これらをさらに細分化している。経営関係のうち、水揚高に分類されるもの14点、魚商関係35点、諸経費36点となる。また、家の文書として宗教関係の史料が30点残存していた。所蔵文書の内容検討から、潤間家は魚介類を扱う商人であった

ことが読み取れ、また、14点の水揚帳などの残存から漁師として実際に漁撈に従事していた家でもあったと思われる。さらに、講などの史料から、民間信仰を通じ地域の人々と深く関わり、指導的役割を務めてきた家であったと推測される。

しかし、この今津朝山（内出）の地で代々漁業と商売を生業としてきた潤間家においても、京葉臨海工業地帯の造成計画実施により、昭和37（1962）年頃家業を中止している。現在の当主功氏の父親に当たる一也氏（97歳）は今も健在で、貴重なお話を伺うことができた。権八氏は船持ちで漁業魚商を家業とした。また、今津朝山漁業組合の役員（理事）をしていた時期もあったという。

家の系図として、潤間甚蔵 - あさ（権八氏と結婚） - 一也 - 功（現当主）と続いている。本文書中に、潤間甚蔵の名が記された文書が6点残されている（目録番号10-3、16、19、21、25、30-1）。甚蔵は船大工であったが、その跡を継いだのは娘のあさで、親戚の権八と結婚している。この地域には第一子相続の風習があり、男女に関わらず最初に出生した子供が跡継となった。あさの子息一也氏は船大工が本職で昭和35（1960）年頃まで、厚生水産のアグリ船2艘の造船に携わった。昭和26（1951）年の漁業史料採訪当時は、当該文書の寄贈者潤間権八氏も健在であった。史料は当時漁協の理事を務めていた権八氏と長男一也氏によって水産庁に寄贈されたということであった。この経路を経て、「潤間権八家文書」と銘記され今日に至ったということになる（2005年1月11日訪問調査）。

（1）今津朝山と漁業

採訪時の住所は「千種村今津朝山」であるが、これは、明治22（1889）年市町村制が施行されて以後の呼称である。旧村の近隣五ヶ村、青柳、柏原、白塚、松ヶ島、今津朝山が合併して千種村が誕生した。この地域の浦名が千種浦であったところから千種村と命名されたという。次の表2「旧村一覧」は、旧村時代の戸口を表している。近隣の村々の中にあつて、今津朝山村は田畑は少ないが、戸口が多い村であったことが分かる。この状況は半農半漁の村とはいっても、実際のところは漁業に依存した家が多かったことが推測される。

この地域では漁業収入は重要であった。漁獲物では^{ばかかい}呆貝と海苔の収入が多かった。浦安から仲買人が来て、漁獲と売買の世話をした。この呆貝は青柳村の港から出荷されたので別名「青柳」ともいう。他にキサゴが採れたがこれは肥料として利用された。海苔の養殖が質、量ともに盛んになった大正10年頃からは、蛤、浅蛸の養殖も盛んになり主要な収入源となった。海苔の養殖は、明治33（1900）年青柳浦漁業組合にはじまって京葉工業地帯造成期の昭和37（1962）年まで続いた（『市原市史』下巻）。

内湾漁業では八手網などで鰯が豊富に漁獲され、押送船で消費地へ運ばれたりもした。今津朝山では漁撈は今津川の川口近く、内出区周辺の海浜が盛んであった。また、今津川は船による運搬を容易にするため川に沿って商家が軒を連ねたという。

表2 旧村一覧

明治19(1886)年調査

	旧村名	戸数	人口	反別(田畑の面積)	その他
1	今津朝山村	230	1,117	75町1反9畝17歩	馬3頭、船103艘
2	白塚村	49	249	66町9反1畝21歩	馬6頭、地勢平坦、米麦作に適す
3	柏原村	36	178	35町8反5畝7歩	馬8頭
4	松ヶ島村	65	349	63町9反8畝14歩	馬7頭、荷船5艘
5	青柳村	220	1,187	194町2反3畝24歩	青柳大豆、呆貝(俗称あおやぎ)
合計		600(戸)	3,080(人)	436町1反8畝23歩	

参考 『市原郡誌』、『上総町郷誌』

製塩は江戸期にすでに行われていたものであるが、明治期においてはより盛んになり「からい今津塩」の名で知られた。塩田は今津川の川口の北側に設営され沖に面していた。しかし、盛時は明治40(1907)年頃迄で、この頃の村には活気が溢れ今津三百軒ともいわれたが、大正期には衰退した。その原因は塩の専売制の影響(明治44年官営事業に移されている)ともみられているが、大正6(1917)年に襲った津波で塩田が全滅したことが大きな理由とされる。

ところで、今津朝山はJR内房線姉ヶ崎駅から北へ2kmほど行った地点である。京葉工業地帯の造成で漁業を全面的に放棄し、今では村の漁場が埋め立てられ大企業の工場が進出している。この地域には、次に示す漁業組合が設立されている。明治36年1月八幡五所浦漁業組合、明治35年12月五井浦漁業組合、明治36年1月君塚漁業組合、明治35年12月松ヶ島漁業組合、明治36年1月青柳浦漁業組合、明治35年12月今津朝山漁業組合、明治36年1月姉ヶ崎浦漁業組合、明治35年12月椎津浦漁業組合である(『市原郡誌』119頁、千葉県水産組合連合会『千葉県水産組合連合会報』第7号)。

次の表3は、今津朝山近隣の漁業組合が、昭和8(1933)年「改正漁業法」を請け出資制の漁業協同組合になったことを示している。今津朝山の漁業協同組合は、昭和14(1939)年7月14日組織設定が改正され205人の組合員を有し、千種村今津朝山の地に立地していたことが分かる。

表3 漁業協同組合一覧

	組織	組合名	所在地	組織設定年月日	組合員数 (昭和 17 年)	組合員数 (昭和 23 年)	員数増減
1	保証責任	姉崎町椎津漁業協同組合	市原郡姉崎町姉崎 37	昭和 14・2・4	158 人	158 人	0
2	同	姉崎町姉崎漁業協同組合	市原郡姉崎町姉崎 41	昭和 13・6・30	397 人	386 人	-11
3	同	千種村今津朝山漁業協同組合	市原郡千種村今津朝山	昭和 14・7・14	205 人	205 人	0
4	同	千種村青柳漁業協同組合	市原郡千種村青柳	昭和 14・2・4	225 人	224 人	-1
5	同	千種村松ヶ島漁業協同組合	市原郡千種村松ヶ島	昭和 11・12・2	51 人	52 人	+1
6	同	五井町五井漁業協同組合	市原郡五井町五井	昭和 14・7・14	944 人	952 人	+8
7	同	五井町君塚漁業協同組合	市原郡五井町君塚	昭和 14・2・4	126 人	129 人	+3
8	同	八幡町五所漁業協同組合	市原郡八幡町八幡 63	昭和 14・6・7	649 人	724 人	+75

参考文献 昭和 17 年『全国漁業組合総覧』全国漁業組合連合会
昭和 23 年度『千葉県水産要覧』農林部水産課

(2) 経営 (漁撈と商い)

魚取上帳、水揚帳など潤間家の漁獲に関する史料が 14 点伝存している。

明治 25 (1892) 年 8 月「水揚萬控帳」(目録番号 29)、明治 24 (1891) 年旧 9 月晦日「魚取高控帳」(目録番号 24)、明治 25 年 9 月 1 日「鯰^{ひしこ}水揚控帳」(目録番号 32)、明治 25 年 9 月吉日「第弐号鯰取揚控帳」(目録番号 33) などで、すべて明治期に毛筆で記された帳簿(横帳)である。残された史料から貝類、鯰などが水揚げされたことが窺える。この地域の浦では、背黒鯉、黒鯛、鰈、鯰、鰻、鼠頭魚、鯊、鰻、牡蠣、蛤、浅蜊、呆貝、烏賊、蛸、蝦、海苔などの水産物が漁獲された。東京湾内の漁場では、3 月下旬～4 月下旬迄は小海老(藻流し網を使用)が、4 月下旬～5 月半ばまでは烏賊(烏賊網を下ろす)が捕獲された。4 月～12 月頃までは、大海老、穴子、鯊、小海老が獲れた。また、背黒鯉(小晒し網で捕獲)や鯰(八手網を使用)も獲れた。しかし、最も盛んだったのは貝類である。毎年 3～4 月頃に蛤や呆貝の種子をまき、11～12 月頃より採取にかかった。本文書の寄贈者潤間家においては魚商を営む傍ら船で漁もしていたので、「魚取高帳」、「水揚控帳」といった帳簿が残される結果となったのだろう。

明治 25 (1892) 年 9 月吉日「鯰水揚控帳」(目録番号 16)には水揚高が記録されている。それには、「八月二十日四拾貳樽、八月二十一日六百六拾七樽、八月二十二日貳百参樽 壱人分金貳円拾六銭、同二十四日貳百樽、同二十六日百四拾参樽、同二十九日五拾貳樽、九月二日五拾六樽、同三日八拾六樽、同四日六拾貳樽、同七日百三十四樽、同十日

百九十三樽、同十二日三百四十樽、同十八日百六拾九樽、同二十日百貳拾樽、ノ壺千六百貳拾樽（以下略）」と、日ごとに記入され、水揚げされた鯉が樽単位で取引されていたことが分かる。鯉も浦安から買付けの仲買人がきた。

商い（魚介類）に関する史料は35点保管されていた。このうち年号が不明な文書が18点含まれていたが、文書の内容などから35点すべてが明治以後に作成されたものと推測される。明治25（1892）年8月良日「網諸入用費控簿」（目録番号30）、潤間甚蔵作成の「仕入控帳」2点（目録番号19、16）、今津仲買作成による「諸費勘定付込帳」（目録番号49）、七軒組作成「勘定帳」（目録番号44）、千種村今津朝山内出仲間と記された明治29（1896）年9月「問屋小売控帳」（目録番号40）なども、同家の漁業経営の内容を把握するには重要な史料であろう。また、明治16（1883）年1月吉日「塩松葉控帳」（目録番号31）、明治27（1894）年12月吉日「呆貝買入帳」（目録番号38）、明治39（1906）年11月吉日「呆貝積立帳」（目録番号50）、無年号「勘定帳」（目録番号63）など商取引の帳簿類も残されている。ここにある「松葉」は、松葉蟹のことである。

さらに、明治40（1907）年1月23日、深川魚市場事務所が今津の文次郎と為替取引をしている史料（目録番号61）が所蔵されている。呆貝115樽、776貫500文の支払いを約束する為替手形である。呆貝の仕切書も残されていた。年号が入っていないが、深川中竹から潤間権八宛てに「ばか227杯半、ノ1,023貫750文」の仕切書（目録番号66-4）が届いている。他にも同様な仕切書7点が所蔵されている（目録番号66-1～66-5、10-2、10-4）。江戸湾沿岸の漁村という地の利の良さから、江戸深川など大消費地との流通関係は江戸期の頃から継続して行われていたと思われる。商売上の「金銭勘定控」10点（目録番号58-2、58-4、58-5、58-7～58-13）も保管されているが作成年号のないものが多い。

この他に必要経費など出入の帳簿や文書が併せて36点伝存する。個人経営の商店に残されていた帳簿ということもあり、1冊の帳簿の中に種々の書き込みもみられた。なかには漁撈に掛かった諸費を記録したものもある。明治27（1894）年8月6日「八手網諸費控帳」（目録番号36）や魚の餌（こませ）を買い入れた控簿が残っている。明治25（1892）年8月「小間世買入控簿」（目録番号46）、明治25年8月吉日「仲間諸費控帳」（目録番号31）、明治25年4月「月並不備金控帳」（目録番号27）、明治34（1901）年11月「火之番給料覚」（目録番号42）、明治35（1902）年8月吉日「鯉網諸費払込簿」（目録番号47）などである。ここにある鯉はカタクチイワシのことで背黒鯛とも云い、ごまめや煮干の原料になるものである。その他、通帳と思われる明治38（1905）年「引合」（目録番号48）、明治16（1883）年5月「諸品之通」（目録番号7）なども残存する。

（3）家（宗教）

講（民間信仰）に関わる文書29点と、金蔵院（仏教）に関する文書が1点ある。今津朝山には富士講、庚申講、大師講、稲荷講、八日講、浅間講、天王講、十九夜講、竜神講、弁天講、子安講など様々な講があつて集会をしていたとされる（『東京湾の漁撈と人生』千葉県民俗総合調査団）。本文書群には特に「初申」の例祭に関するものが19点残存する。潤間三次郎、潤間甚蔵、潤間権八など潤間家一族の人々の名が講の文書に見える。

「四月の^{はつさる}初申の日」については、次のような文献が参考になる。「浅間様の祭りは四月初申と毎月十七日」、「四月初申、五・六十歳以上の者が輪番の宿に寄り、浅間様を拝み、会費制で飲み食いする」(前掲『東京湾の漁撈と人生』145、167頁)とある。ここにある「浅間様」は、中世以来の浅間大菩薩信仰(浅間神社)に繋がる富士講である。富士講信仰の創出者長谷川角行の富士山麓人穴(人穴浅間神社)における修業は、永禄元年^{つちのえうま}戊午年(1558)4月初申の日から始められ、永禄3年^{かのえさる}庚申年(1560)4月初申の日に満願を迎えたという(『江戸の祈り』245頁 吉川弘文館 2004年 植松章八「富士講の成立と展開」)。

内出、田中、宿などの地区の住人らで講を作ってお祭りをした史料も残されている。このように多量の講の史料が本文書中に発見されたこと自体大きな成果の一つであった。代表的なものとして、明治24(1891)年4月初申日「初申諸費控帳 内出講社」(目録番号23)、明治44(1911)年4月初申日「初申諸費帳 内出講社中」(目録番号54)、明治18(1885)年旧4月3日「初申諸入用控帳 世話人」(目録番号11)、明治16(1883)年4月初申日「初申諸費控帳 一山講社」(目録番号6)、明治40(1907)年4月初申日「初申諸費並人名控 内出講社」(目録番号51)、明治19年旧4月9日「初申諸入費控帳 宮宿講、内出講世話人」(目録番号13)などがあり、これらの史料の形態は全部横帳である。帳簿の内容は富士講の初申の祭りの費用を集金した覚えである。明治13年9月吉日「萬覚帳」(目録番号2)、明治16年7月「拝殿修復諸費付込簿」(目録番号8)は、富士講に掛かった費用や寄付金を集金した勘定帳である。

ところで、切紙に記された貴重な史料が1点見出される。明治18(1885)年旧1月22日「内出田中講中五十四軒分集金渡し状」(目録番号10-1)には、小高與惣吉が、潤間三治郎に内出と田中の講中の会費54軒分を集金し手渡したという記載がある。ここにある内出、田中は小字名である。この1点の史料からも、この地域における潤間一族の世話人としての立場を窺い知ることができる。潤間家では、富士講と出羽三山を信仰の対象にしていた。家の近く(内出)の飯奈里(稻荷)神社には今でも参拝している。飯奈里神社境内には土盛り型の富士塚が築かれ、文政年間築造の碑が建っている。一也氏自身、富士山へは数回登っているということであるが、普段はこの富士塚に参拝とのことであった。明治期は民間信仰が民衆の間で盛況した時期であり、また、それを通じて地域との繋がりも豊かになった。

一般に富士山信仰を「富士講」といった。元々、富士講は江戸期に成立した民衆宗教の一派であり、江戸の下町を中心に発達し広まっていった。富士講は富士山を信仰する農民・職人・商人で組織された講社である。富士山登拝を行うこと、山に登ることが修業とされる信仰であり浅間講ともいう(富士山本宮浅間神社)。講元(資金担当、代表者)、先達(信仰、登山指導)、世話人(講員の勧誘、集金役)を講三役といった。いでたちなどから推して修験道に近い宗教と思われる。

次に示す史料は大神楽を招く資金徴収のために寄付を募った集金簿である。元来、大神楽とは民俗芸能で神楽の一種である。近世初頭から伊勢参宮の隆盛にともなって起こった二人立ちの獅子舞で、代参祈祷の清め、祓いの獅子を舞わせ、神札を授けるなどして諸国を巡って歩くものである。代参の意味から古くは代神楽と書いたが、後、皇太神宮の表記と同じように「太」を用いるようになった。近年は「大神楽」とも書き、曲芸を演じて見せる。伊勢太神楽と江戸太神楽の二流が代表的なものとする。

「潤間権八家文書」は、明治15(1882)年4月吉日「大々御神楽集金簿」(目録番号3)、明治15年4月初申日「永代大御神楽講金簿」(目録番号4)の2点が所蔵されている。大神楽の集金がどのように行われていたのか史料の内容を抜粋してみよう。

「(前略) 田辺様の永代御神楽講ヲ引請、当講社連名候之内、右御神楽講加入人、七拾名之上納金 〆金拾七円七拾五錢ヲ上納仕ル処、右金内 金八円七拾五錢入金 明治十五年旧四月初申之時 残金八円七十五錢者田辺様ニ其節借分也 (中略) 〆金壹円三十錢田辺様江潤間権八立替上納 右戸守代老人前金一錢ツツ之集金八十錢者潤間権八江入金 右金五十錢大祖神參代料了、名々講社の潤間三次郎請取有之故、右金壹円五十錢立替之分爰ニ而相済候也 明治十八年旧二月二日」(目録番号3)とある。「田辺様へ、潤間権八立替上納」と記され当時の世話役の名前が浮かんでくる。また、「明治十五年旧四月初申之時」とあり、前述の「初申」の祭礼に関係ある史料となっている。おそらく、明治15(1882)年旧4月初申の日、大神楽を招聘し賑わったのであろう。

もう一方の「御神楽講金簿」には、代表者や構成員の名が記されている。「未年集金分一金七円六拾七錢、旧十二月三日講中の集金壹軒前金拾參錢ツツ五拾九軒分者右金数也」(目録番号4)とある。当時の講員名簿(59軒)として貴重な史料になる。

また、竜神講が盛んであったことは、漁業との関係を感じさせるものである。今津朝山内出区の浜に近いところに竜宮(水神)がまつられている。漁撈者で講を作り、年1回仲間が集まり、祭りをして飲食をした。海の安全を祈ることや、漁師仲間との親交をはかることが目的だったのだろう(『市原市史』、前掲『東京湾の漁撈と人生』)。

寺院史料は1点のみである。昭和4年旧7月12日「盆供並費用控帳」(目録番号59)とあるもので、金藏院の盆供布施の控帳である。潤間権八や潤間仁三郎の名が記録されている。金藏院は潤間家の檀那寺と思われる。金藏院は能藏院や延命寺と同様新義真言宗豊山派に属する寺院で現在は無住である。

さて、本文書総点数119点のうち、信仰に関する史料がおおよそ2割保管されていたということになる。漁に出た肉親、知人の無事を願った村の人々の祈りの気持ち、そしてまた、現世利益を求める願望が種々の講を作り、信仰を通じ協力しあったと思われる。地域における横の繋がりを大切にする風習は漁村社会の特色の一つでもある。

(文責 鈴木江津子)